

論文番号 147

担当

独立行政法人 酒類総合研究所

題名(原題/訳)

Assessment of tasting disorder in alcoholics

アルコール依存症者における味覚障害の評価

執筆者

Mizukami Y, maruyama K, Nakagawa Y, Yokoyama A, Okuyama K, Takahashi H,
Hosaki S.

掲載誌(番号又は発行年月日)

Jpn. J. Alcohol and Drug Dependence, 36 (5) 504-513, 2001

キーワード

アルコール依存症、味覚障害、亜鉛、全口腔法、末梢神経障害

要旨

慢性的または過剰のエタノール摂取が味覚機能に与える影響について検討するために20人のアルコール依存症男性患者について全口腔法により塩味、甘味、酸味、苦味、グルタミン溶液についての検討を行った。その結果、全ての患者は健常者と比較して、全ての溶液に対する味覚に障害が観察された。

その原因を調べるため、アルコール依存症者の味覚障害は1日当たりの推定エタノール摂取量、又は推定総エタノール摂取量について推定量を面接聞き取り調査により調べたが、相関は得られなかったことから味覚障害はエタノール摂取によるものではないことが示唆された。また、味覚障害に関連していると考えられる血清亜鉛濃度は標準範囲内であったが、標準範囲内でも低レベル域であった。そこで、亜鉛を投与し経過を観察したところ、平均の血清亜鉛レベルは投与5週間後有意に増加したが、味覚の機能との相関性は得られなかった。

以上の結果からアルコール依存症患者では味覚機能が損なわれているが、これは亜鉛欠乏などの栄養障害というよりも、恐らく末梢神経系の障害によるものであると考えられた。